

1分1秒でも早く

人工呼吸・胸骨圧迫
と一緒に大切

心

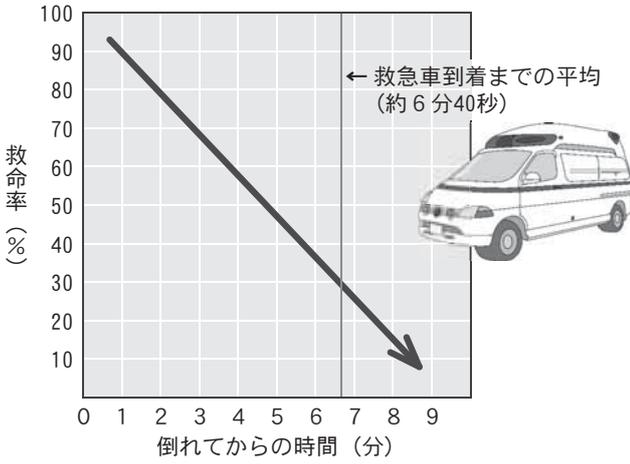
室細動を起こした状態で、電気ショックを与えたときに救命できる確率（救命率）は、倒れてからの時間が1分経過するごとに7〜10%も下がります（左図を参照）。

通報を受けてから救急車が到着するまでに7分かかったとすると、助かる割合は約30%です。

119番通報をするまでに数分かかったとすると、助かる可能性はさらに低くなってしまいます。

助かる命を助けるためには、1分1秒でも早く行動することを心がけましょう。

図：AEDで電気ショックを与えたときの救命率



AEDは心室細動を起こしている心臓を正常な心拍に戻す機器です。しかし、それだけでは命を助けることはできません。

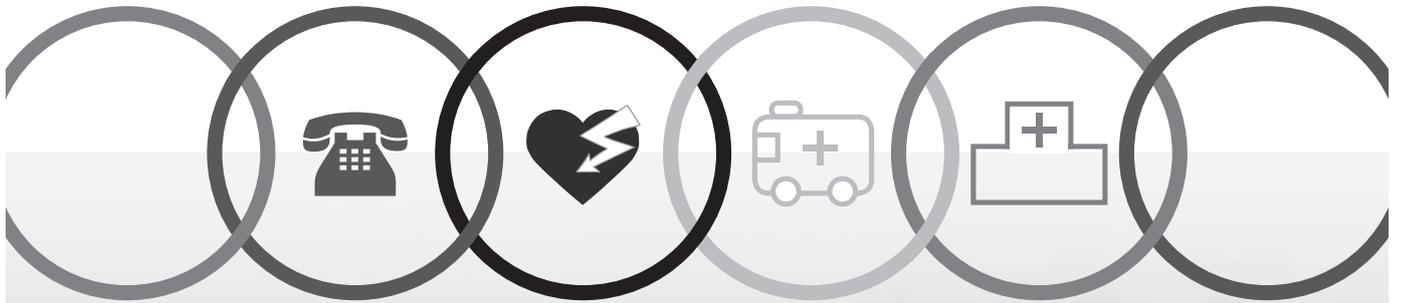
人間は生きている間、身体のすべての細胞が酸素を必要としています。酸素がなくなるとすぐに脳の細胞に変化が起こり、放っておくと元に戻らなくなってしまう。

脳が酸素の無い状態で活動できる時間は、3分間〜4分間といわれています。AEDの電気ショックで心臓が動き出したとしても、呼吸が止まったままでは脳死状態になってしまい、社会に復帰することが難しくなります。

呼吸や心臓が止まっている方を助けるためには、**AEDとあわせて心肺蘇生、すなわち人工呼吸と胸骨圧迫（心臓マッサージ）を行うことが大切です。**

倒れている方がいたとき、まずは落ち着いて119番通報をしましょう。つぎに、周りの方に呼びかけ、すばやく心肺蘇生を行い、近くにあるAEDを使って救命処置をしましょう。

119番通報から救急隊に引き継ぎ、病院などの医療機関に搬送されるまでの「救命の連鎖」が繋がったとき、命が助かる可能性は高くなります。



救命の連鎖 (Chain of Survival)

- 早い119番通報：落ち着いて、はっきりと119番に通報
- 早い応急手当：救急車到着前の早い心肺蘇生とAEDの使用
- 早い救急処置：救急救命士などが行う高度な救急処置
- 早い救命医療：医療機関における高度な救命医療

